

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

平成29年度実施報告書

埼玉県立熊谷女子高等学校

1 学校の現状と課題

<現状>

本校は創立107年目を迎え、県北の伝統ある女子校として地域の期待は大きい。「高い志を持った次世代を担う女性の育成」を重点目標の一つに掲げ、骨太リーダー育成・進学指導重点推進校、SSH指定校、未来を拓く「学び」プロジェクト研究開発校として、生徒の学力向上や進路指導の充実に関わる様々な取組を進めてきた。

生徒は、勉強だけでなく部活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事に積極的に取り組み、高い意欲を持って学校生活を送っている。地域の高齢者施設や小中学校、保育所等を訪問し福祉活動や児童・生徒の支援を行ったり、ニュージーランドの姉妹校との交流事業を行ったりと幅広く活動する。地域や他校生徒との交流をとおして自らの生き方や在り方を見つめながら、リーダーとしての自覚を高め、大きく成長するための基盤をつくっている。

<課題>

- ・地域から海外まで幅広く教育活動を展開し、さらに高い志や使命感を育み、次世代をリードする生徒を育成する。
- ・様々な教育活動において、生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させる取組を研究し、実践していく。
- ・生徒の一人一人の第一志望の進路を実現させるため、学校が教育活動に組織的かつ効果的に取り組む。
- ・高大接続改革を見通し、進路指導を体系化し方法論を精査する。

2 本校における28年度までの取組及びその成果と課題についての概要

生徒の学力を向上させ、将来リーダーとして活躍する意識を醸成するために、各業界のリーダーによるキャリア教育講演会、大学の教授による大学模擬授業、海外大学の教授による特別講演会、生徒の海外派遣等の実施、地域でのリーダー活動・体験、SSHの取組を行い、様々な角度から物事を見る力の育成を図った。県主催の事業（骨太リーダー育成事業、県立高校海外派遣プログラム等）にも積極的に参加し、その後、参加生徒による報告会を実施した。参加者の意識や思考力・プレゼンテーション能力を高めるだけでなく、他の生徒への動機付けにもつながり、学校全体への波及を図ってきた。

また、教員においては、他県視察を実施し、その後の報告会、指導力向上セミナーへの参加など、授業力向上を図った。

年間を通して、リーダーとして活躍する場面を与え、生徒の高い志や使命感を育成するものであったと言える。しかし、自主的・総合的に考え的確に判断する力や豊かな人間性等は、一朝一夕にして育成できるものでないため、継続的に取り組んでいかなければならないという課題がある。

平成29年度入学の大学入試合格実績は、国公立大学67名（昨年度比+12名）、G-MARCH119名（昨年比+38名）に上昇した。さらに上位の学校を目標にするとともに、学業のみならず、豊かな人間性を育み、大学卒業後には、企業や地域でリーダーシップを発揮することができる一層高い志を持った生徒の育成を図っていかなければならない。

3 本年度（29年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

ア 講義・講演等のねらい

第一線で活躍している大学教授や社会人講師の話を聴くことによって、将来学びたいこと、自分の就きたい職業について考える。また、これらの課題実現に向けて努力する態度や、学問や大学進学に向けた意識の向上を図る。

イ 講義・講演等の概要

①全校講演会

期 日 平成29年5月30日（火）

対 象 全校生徒

講 師 東京農工大学大学院 工学研究院 先端電気電子部門 特任准教授

②キャリア教育

期 日 平成29年9月25日（月）

対 象 1年生全員

講 師 参議院法制局第四部第一課 参事
クリーク商標著作権事務所 弁理士

ウ 生徒の様子（アンケート結果等）

キャリア教育では、効果的な講演会を実現できている。9割を超える生徒が「有意義であった」「進路に対する意識が高まった」「将来を考えるきっかけとなった」と回答している。

◇質問1「講義は有意義でしたか」

→ 回答「たいへん有意義であった」「有意義であった」98.8%

◇質問2「この行事をとおして、学問や大学進学への意識・意欲は高まりましたか」

→ 回答「たいへん高まった」「高まった」96.1%

◇質問3「この行事は、将来を考えるきっかけとなりましたか」

→ 回答「非常になった」「なった」95.2%

2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

ア 報告会等のねらい

事業に参加した生徒の体験を学校全体に報告する機会をつくることで、以下の点について効果を狙った。

① 生徒全員で情報や体験の共有を図り、全体の生徒に事業に対する興味関心を持たせ、積極的に事業に参加するなど、リーダーとして社会で貢献したいという意

識を高める。

- ② 発表者の思考力やプレゼンテーション力を高めるとともに、学校の代表としての参加したことで、リーダーとしての意識を高める機会とする。

イ 報告会等の概要

(ア) 骨太リーダー育成事業報告会

・報告した事業

高校生のためのアスペン古典セミナー	…	参加生徒	4人(2年生)
東日本大震災被災地訪問	……	参加生徒	3人(2年生)
スポーツ教養セミナー	……	参加生徒	19人(1・2・3年生)

・報告日・場所

平成29年12月22日(金) 終業式後 体育館

・発表内容

参加行事の体験内容や印象に残ったこと等についての体験報告

(イ) 県立高校海外派遣プログラム

・参加事業

県立高校グローバルリーダー育成プロジェクト …… 参加生徒 3人(2年)

・報告日・場所

平成29年11月27日(月) 全校集会後 体育館

・発表内容

アメリカのハーバード大学、マサチューセッツ工科大学等へ短期派遣されたことについての体験報告

ウ 生徒の様子(アンケート結果等)

参加した事業への満足度は高く、参加生徒全員が満足と回答している。生徒は「参加した事業の体験をとおして、価値観や人生観が大きく変わった」と述べている。

一方で、参加生徒自身の他の生徒への波及に対する意識は、「あなたが事業に参加したことにより得たことを、他の生徒に波及させるのに貢献できたと思いますか。」という問いに対し、「はい」と答えた生徒は、37.5%に留まっている。

3) 他県視察について

ア 報告会等の概要

職員会議において、参加教員から視察高校の概要、特色ある取組、本校にとって参考となる取組、全体をとおしての感想等を報告した。

視察高校：茨城県立下館第一高等学校

視察日：平成29年10月24日(火)

イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

平成30年度の進路指導部を支える教員と1学年の担任となる教員を派遣した。職員会議で報告し全職員で先進的な取組の実践について情報共有した。今後は進路指導部や学年の取組の中で、継続的に指導改善・授業改善に取り組んでいく。

4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導体制を構築する取組について

高校教育・大学教育・大学入学者選抜を三位一体で改革する高大接続改革に対応するため、高校教育から大学教育を一貫して見据え、授業改善、学力向上の対策を考えていかなければならない。これからの時代に求められる学力の重要な3要素である

- ① 知識・技能の確実な習得
- ② 思考力、判断力、表現力
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

を育成し、21世紀を生き抜くために必要な資質・能力を身につけさせることがますます重要となっている。

今後、企画委員会・進路指導部・学年・教科・高大接続改革対応委員会等が連携し、授業研究や校内外の研修会等を行い、さらなる指導の改善を図り、生徒の高校での学びを多面的・総合的に評価し、生徒の自己分析・振り返りを促進し、大学入試、大学での学びに繋げていかなければならない。アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた指導を一層充実させ、生徒にこれからの時代に必要な学力を養成するとともに、社会に貢献できる高い志や使命感を育成し、将来の日本をリードする骨太で品格ある女性リーダーになるための資質を培っていく。

5) その他

本年度取り組んだその他の事業

- ・地域の福祉施設や保育所等におけるボランティア活動に、160名以上の生徒が参加
- ・熊谷市立富士見中学校において、学習支援活動を延べ50名の生徒が実施
- ・熊谷東小学校において、ラクロス部・水泳部の生徒延べ220名が学習支援や部活動支援を実施
- ・教育力向上研修会、学びプロジェクト研究公開授業、
- ・北部5校英語研究会を年間10回実施し、授業の工夫・改善の研究

4 参考資料

なし